75. 今年の春（雑文）

日本気象協会が 2 月 21 日に発表した 2023 年の花粉飛散傾向の関東甲信地方は、「非常に多い」であり例年比で 200 %、前シーズン比で 210 %と予測された（気象庁では発表していないらしい）。その結果は過去 3 年で最も多く飛散し、4 月 10 日時点の飛散量は既に例年値（過去 10 年の平均）を超え、22 年比東京で約 1.8 倍と大量飛散になったという。

昨年秋に白内障の手術をしてから特に目に入るほこり類に敏感になり、毎日車のフロントガラスの汚れを気にするようになった。うっすら以上にガラスが黄色くなっているのを見ると、外に出掛けるのがいやになるのは仕方がない。目薬は目を洗うための使い方になり、必携になった。

花粉症は戦後の住宅需要の高まりで杉や桧の人工林が拡大し、「国民病」とも言われる。環境省の 19 年の有病率は 42 %だという。新聞記事によれば、都は 05 年に対策本部を設け発生源対策として花粉の少ない品種への植え替えを進めてきたが、多摩地域の対象人工林 3 万㌶の内、着手できたのは 9 千㌶で、しかもその内 8 千㌶は間伐によるもので、植え替えは進まないとある。これでは効果は全く期待できない。植え替えを増やすには国内木材の販路を広げたり林業の担い手を増やす必要があるというのは至極もっともな話だ。「花粉はわが国の社会問題」と言ったのは岸田首相で正鵠（せいこく）を射ている。「結果を出したい」ともいうので、有効な手段を是非とって欲しいと思う。

花粉が終わりかけたら、今度は中国大陸から西風に乗ってくる黄砂だ。前橋では一時、視程（見通せる距離）が 10km を切ったという。フロントガラスの表面は花粉よりザラザラする感じだ。黄砂には大気汚染物質が付着し、金属なども含まれているらしい。昼間なのに黄砂で少し暗くなった北京市街の映像を見ると、住むのも大変そうと思ってしまう。中国は軍拡ではなく、黄砂対策等の環境問題を本気で取り組んで欲しいと思うのだが。

4 月の統一地方選で我が羽村市も市議選があり、定数 18 に対して 24 人が立候補した。選挙活動は、選挙カーによる連呼と音量は明らかに静かになり、迷惑この上ない電話による投票依頼は留守電に 1 件入っていただけだった。これらの活動は認められているとはいえ、ようやく常識の範囲になってきたということだろうか。

「東京 26 市の中で 50 歳未満の市議が 1 人もいないのは羽村市だけ」「羽村市議は 60 歳以上が 72 %で周辺市議のなかでダントツ」「大切なのは若手とベテランのバランス」と訴えた候補者がいた。選挙公報の内容や、候補者が遊説で来たとき話を聞くと、市政全般にもそれなりの考えを持っているようだったが、残念にも当選を逃した。選挙結果は 60 歳以上は 61 %になったが、相変わらず高齢市議が多いのは問題だろう。中には 8 選を果たした議員もいる。彼ら彼女らは基本的に後継者を育成しないで「俺(私)がの世界」を演出しているとしか思えない。女性も含めて 30 代 40 代の議員がもっと増えて真に役立つ少子化対策などを進めて欲しいと思う。

後日談がある。選挙後、ある党の議員が夫婦で当選のお礼に来た。応対した妻は心当たりがなくびっくり。後日その奥さんに会ったので「お礼は見当違いなことで、迷惑なんですが」とやんわりと言っておいた。何の思惑か知らないが烏滸（おこ）の沙汰だ。

ところで昨年 4 月から始めた「俳句（市民）講座」を 3 月で止めることにした。先生から「何故止めるの？」と聞かれ、「以前からのライフワークの勉強が疎かになってしまったので」と半分は本音を答えた。先生が後の半分の理由を推察したかどうかはわからないが、何かを感じたよ

うな顔つきだった。1年で 24 回の集まりの内、23 回出席し、残る 1 回は白内障の手術の影響で欠席したが事前に投句は行った。但し、作ったのは全部で 100 句位で習うにしては少ない数だ。作り方や著名人の句の鑑賞などの勉強もしたが、中途半端な結果としか言いようがない。ライフワークにけじめをつけたら、何れ再開したいと思っているのだが。

食料品スーパーに妻と一緒に行った折、雑誌などを売っている小さなコーナーで『決定版 相対性理論のすべてがわかる本』（ワン・パブリッシング発行）というのが目につき、何故このような本がここにあるのだろうと思いつつ衝動買いしてしまった。税込 693 円で内容の割に極めて廉価。57 年前の学生のとき、物理の授業で特殊相対性理論の概要を学んだのは覚えているが、それ以来の相対性理論との対面である。読むとこの本はなかなかのものであることがわかる。ニュートン力学や電磁気学と相対性理論との関係、一般相対性理論の世界、現代物理学や宇宙との関係など興味津々の幅広い内容で、しかも例え話で分かりやすく説明（それでも不思議なことはあるが）するかと思えば、具体的な数式も出てきたりする。その一部は、まだ持っている昔の物理の教科書を開いて数式の確認もしてみた。一点だけ本当かと思ったのは「GPS と相対性理論」というコラムである。「カーナビの GPS は相対性理論を活用」という趣旨だが、ネットで調べてみると結構異論がある。真意を見極めるためにはそれなりの理解をしてから自分で解いてみるべきとも思ったが、ちょっと時間がかかりそうなので諦めることにした。

不思議なのはこの本の著者は誰なのかというと、編者が「科学雑学研究倶楽部」とあるのみでネット検索しても実体がよくわからないことである。これだけの本を出版しておいてである。

5 月 2 日の好天の日、ハイキングに出掛けた。青梅線の鳩ノ巣駅で降り、鳩ノ巣渓谷と白丸ダムの湖畔沿いに奥多摩駅まで歩いた。鳩ノ巣渓谷では、様々な巨岩奇岩と複雑で勢いのある水の流れに新緑が合わさり素晴らしい景観だったし、白丸ダムからはエメラルドグリーンの深い色合いの湖面が美しかった。数馬峡橋というのがあり、そこから見る景色は青葉と新緑の濃薄の緑に圧倒されそうだった。橋の片袂には奥田元宋（日本画家）の、もう片袂には川合玉堂（日本画家）の歌碑があった。

ひとり来て生きるいのちを想ひたり紅葉のくらき山にむかひて
山鳩の巣こもるあたり白々と暮れなづみゆく峯は静かに
　　奥多摩山峡に折々の時写生に赴きよめる　平成七年　元宋

山の上のはなれ小むらの名を聞かむやがてわが世をここにへぬべく
　　明治三十六年春奥多摩中山郷附近にてよみし旧作をしるす　玉堂

元宋の絵は強烈な紅葉の色を覚えている。玉堂の郷愁を誘う絵は大好きで、昔、玉堂美術館で求めた絵を飾っていた。玉堂の歌は 30 歳頃のもので、奥多摩に永住するようになった原点の歌と言われるとか。全く同じ歌の碑が「奥多摩むかしみち」にもあったのを思い出す。

その後、奥多摩駅に着き駅前のビジターセンター前の休憩机でワンカップのお酒を飲みながらむすびを頬ばった。帰りは日向和田駅で途中下車し、友人の店でお酒ご馳走になりながら奥さんの面白く為になる話を沢山伺った。駅に戻る途中、多摩川の神代橋袂の中曽根康弘の句碑を以前見ていたので、何という句だったか確認した。「ふるさとに澄める空あり雁渡る」だった。

ほど良い疲れと酔いに、幸せなうれしい一日だった。

（2023 年 5 月 7 日）